

日本株 – 市場のセンチメントが急速に悪化 –

＜年初から4日連続の下落＞

日本の株式市場は2016年の年初から4日連続で下落し、日経平均株価の下落幅は▲1,266.37円、下落率は▲6.7%となっています。

今年最初の取引となった4日の日本株は、年末の海外市場が弱かったことや中東での地政学リスクの高まりを受けて下落してスタートしました。その後発表された中国の経済指標が予想を下回ったことなどから中国経済に対する懸念が高まり、下落幅が大きくなりました。中国人民元が直近の安値を更新し、中国株がサーキットブレーカーが発動されるまで下落するなどしたため、市場のセンチメントは急速に悪化しました。

5日は欧米市場や中国株の上昇を受けて一旦は前日比プラスとなったものの、最終的にはマイナスとなりました。

6日は北朝鮮による水爆実験のニュースが伝わり下落幅が拡大しました。

7日は原油価格が大幅下落し欧米市場が下落したのに加えて、中国人民銀行が人民元の中心レートを前日比▲0.5%引下げたことから円高が進行し、日本株は大きく下落しました。中国株は再びサーキットブレーカーが発動しています。

為替市場では円高が進行し、円は1米ドル=117円台にまで上昇しました。中国経済に対する懸念が高まり、豪ドルやNZドルに対しても円高が進みました。

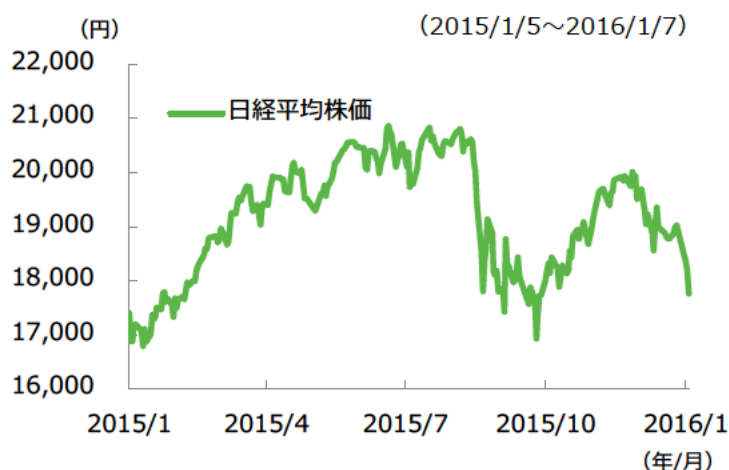
＜今後の見通し＞

今回の状況は2015年8月に中国人民元が実質切り下げられた時に似ています。その時も人民元安をきっかけに中国株が大きく下落し、市場のセンチメントが急速に悪化しました。ただ、その後は行き過ぎた悲観論が修正されるに伴い市場は回復基調を取り戻しました。

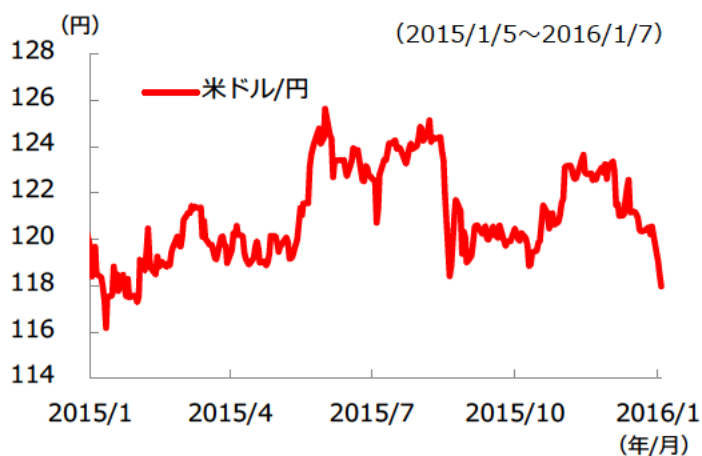
しばらく時間がかかると予想されますが、今回もその時と同様に回復基調を取り戻すと予想されます。中国経済に対する懸念が度々高まりますが、その都度、政府による経済対策などにより払拭されてきました。

日本では夏の選挙に向けて政府による経済対策が期待されています。また、日銀による追加緩和の可能性も残っており、市場に対する悲観論が後退すれば、日本株は回復基調を取り戻すと予想されます。

＜日経平均株価の推移＞



＜米ドル/円の推移＞



出所：Bloomberg